２０２５年9月６日（土）

老球の細道８８５号

第６２回県高校選手権会津地区大会雑感「プレスデイフェンス考」

会津バスケットボール協会　　室　井　冨　仁

かつて全国大会常勝であった能代工業バスケットボールは１試合通してゾーンプレスデイフェンスを使い高校バスケット界を席巻していた時代があった。全米学生（NCAA）選手権においても１９９４年アーカンソー州立大学が１試合通してプレスデイフェンスをしかけ、相手チームに「地獄の４０分」と恐れられていた時代があった。身長の低いチームが平面での戦いに活路を見い出す必然的な戦略戦術であろう。先日行われた高校選抜地区大会では会津高校男女チームが１試合を通してオールコートマンツーマンプレスを使っていた。

プレスデイフェンス（以下プレス）は薬と同じ両刃の剣の要素がある。上手く使えば相手チームに大打撃を与えて大差で勝利を得たり、大事な勝負所で大逆転を演じたりするが、使い方を誤ると簡単に突破されてアウトナンバーのイージーシュートで得点されてしまう。

２０００年会津高校のコーチ時代、１８０㎝を超える者が皆無だったので大男チームを破るにはオールコートプレスしかないと確信し徹底的にプレスを練習したことを思い出す。モデルは当時のNCAAチャンピオンリック・ピテイーノ率いる「ケンタッキー大学」。

多くのチームはプレスに対してパスで運ぶことが多いのでマンプレスをメーンデイフェンスにした。プレスは相手に慣れられると簡単にイージーシュートで決められてしまうので、慣れさせないように色々なバリエーションを準備した。

一つは、４つの戦術で変化をつけた。①ステイック＆ディナイ（コールNo１０番）。１：１でプレッシャーをかけドリブラーのドリブルを止める。止まったらボールマンにはステイック、オフボールマンにはディナイしてターンオーバーを誘う②ラン＆ジャンプ（２０番）。ドリブラーに対して「ジャンプスイッチ（とび出してスイッチ）」をしかけてパスミスをさせる。パスをしないでストップしたら直ちに「ステイック＆ディナイ」にチェンジする③ラン＆トラップ（３０番）。ドリブラーをダブルチームしてターンオーバーを誘う④パス＆トラップ（４０番）。スローインのファーストパスに対してダブルチームする。

もう一つは、プレスをしかける場所に変化を持たせること。これはノースカロライナ大学元Ｈ・Ｃデイ―ン・スミス（マイケル・ジョーダンの恩師）の戦術を真似して、コートを４分割してバックコートスローインからしかける場合をコールNo「４番」として、スリーコーター（４分の３）からしかける場合は「３番」、ハーフラインからしかける場合は「２番」、３Ｐエリア近辺からしかける場合は「１番」とした。フルコートからラン＆トラップを仕掛ける時は「３４番」とコールをすれば、タイムアウトを取らずにライブ中にチェンジできる。

バスケットのゲームは自分達の強みをやり通すことと、相手によって柔軟に対応することも必要だと思う。県大会は会津地区で行われるという。県大会常勝チームは会津地区に比べて身長の高いチームが多いようである。プレスデイフェンスの使い方で身長差のハンディーを克服できるかもしれない。プレスデイフェンスの攻撃の仕方も学ぶことができる。